



第 55 号
平成31年1月1日 発行
発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
坂本 裕彦

基本“唯惜命”
理念

私たちは生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 「産業医」ってご存知ですか？.....1
- サルコーマセンターの紹介.....2
- 8階東病棟紹介.....3
- 患者セミナー患者サロンのご紹介／みどりの図書室へようこそ.....4



埼玉県のマスコット コバトン

産業医ってご存知ですか？



副病院長
柵木 信男

副病院長 柵木 信男

がんセンター職員は、患者さんの診療・検査やその介助だけでなく、いろいろな病院業務を維持改善するための役割を担っています。私も、血液内科の医師として患者さんの診療に携わ

るだけでなく、通院治療センター、緩和ケアセンター、治験管理室などの診療関連部門の責任者としてその運営に携わっているほかに、当センターの「産業医」に任命され活動しています。

「産業医」は50人以上が働く事業所に選任することが法律で定められており、働く人の健康管理や職場環境の点検監視を行うことで、職員の健康保持や安全確保に関わることが求められています。なお、病院長が産業医を兼務することは禁じられています。たとえ患者さんのためであっても職員に不当な長時間勤務をさせたり、健康管理に必要な対策を経営上の観点から怠ったりすることがあってはならないとの理由からです。

病院には多数の医者が勤めているから健康管理は万全ではと思われがちですが、「〇〇の不養生」とことわざにされるくらい、昔から怪しまれていたようです。医師に限らず自分のこととなると無頓着というか、自分だけは大丈夫と自信過剰だったり、あるいは熱意のあまり時間を忘れて働き過ぎるなど、理由はさまざまですが健康を害してしまつては患者さんにもご迷惑をかけてしまいます。

また、病院は働く者にとって危険があちこちに潜んでいる労働環境であるという見方もできます。法律には「有害業務」とはどういうものか定められていますが、そのなかには深夜業務、病原体による汚染の恐れ、(一部の医薬品にも含まれる)有害物を扱う、放射線にさらされる、など病院として避けられない状況が列挙されています。

では、実際に産業医としてどのような活動をしているのかを紹介しましょう。ひとつは「職場巡視」で、月1回以上行うよう定められており、職場の環境や衛生状態をチェックして安全な診療・作業が行われているかを見回ります。騒音が気になる場所がないか、空調や換気の不備で暑すぎたり寒すぎたり、臭いがかもったりしないか、照明は適切か、休憩室に昼食の食べ残しが放置されていないかなど、五感を働かせつつ病院中を歩き回り、その場の職員へ残業の状況や健康状態はどうかなど聞き取りしています。

長時間勤務者や高ストレス者の求めに応じて行う面接指導も大事な役割です。長時間労働や過度のストレスが体や心を蝕むことは明らかであり、個人の「働き方改革」を進めていただけるよう一緒に考えています。

そうした日常の活動から浮かび上がった課題について、病院長と各職種の代表とが集まり毎月開かれる「衛生委員会」に出席して産業医としての意見を述べて、安全で働きやすい病院となるよう議論しています。

職員の安全と健康を守ることが活力ある病院運営の基礎となり、さらには患者さんの健康回復にお役にたてるのではと思い活動を続けています。

サルコーマセンターの紹介



整形外科科長・
サルコーマ希少がんセンター
副センター長
五木田 茶舞

整形外科科長・サルコーマ希少がんセンター副センター長
五木田 茶舞

県内唯一のがん専門病院として高度先進がん医療を提供している当院ですが、その中で整形外科はどのような診療をしているかご存知でしょうか？当科は主に、四肢や体幹（胸・腹部や骨盤部等）に発生する希少がんである、“サルコーマ（肉腫）”の治療を行っています。

サルコーマ（肉腫）とは？

サルコーマとは、骨、軟骨、筋、神経、血管や脂肪組織などにできる悪性腫瘍のことです。米国の統計によると、骨あるいは軟部組織の肉腫患者数は、人口10万人あたり年間0.4～3人程度と言われ、日本国内では年間わずか5000人程度です（図1）。このため、サルコーマは、いわゆる希少がんに相当します。

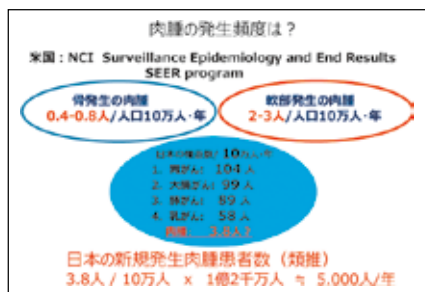


図1：サルコーマの発生頻度

またサルコーマはWHO病理組織分類によると、51種類にも及ぶ疾患名が存在します（図2）。そしてこのような、希少かつ多彩な疾患群を扱う腫瘍整形外科医は、全国にそう多くないのが現状です。



図2：サルコーマの多彩な病理診断

サルコーマと“できもの”の違いは？

サルコーマは、実は患者さんが気付く“できもの”の中に隠れています。また、骨以外にできるサルコーマ

マの多くは、痛みを伴いません。サイズの大きなものばかりではなく、1,2cm程度の小さなサルコーマも存在します。つまり、「小さくて痛みのないできもの」や、「脂肪のかたまり」であっても安心とは言えないのです。事前の詳しい検査なく安易に手術することは、時に患者さんにとって不利益となります。なぜならサルコーマの外科治療は、再発や転移を防ぐために、初回治療で腫瘍を治しきるための「広範切除手術」が必要だからです（図3）。

■広範切除術



図3：サルコーマの手術は腫瘍の端から十分離れた切除が必要です

当院におけるサルコーマの診療体制

当院では、サルコーマの診療を1975年から始めており、国内でも有数の治療実績があります。現在は、新しい治療の登場に合わせ、常に最新の治療法を取り入れています。サルコーマの治療は、一つの診療科・一人の医師の判断で行うよりも、複数の診療科で総合的に行うほうがより良い治療を提供できます。そこで当院では、「サルコーマのチーム医療体制」を整えました。診療の中心を担う整形外科は4人で、サルコーマを再発させない正確な手術、かつ手足を切断せずに腫瘍を取りきる繊細な手術を提供します。腫瘍内科医2人のスタッフは、昨今進歩している分子標的薬を適切に使用する、がん薬物療法の専門家です。そして病理診断科2人のスタッフは、難しいとされるサルコーマの診断を、迅速かつ正確に行い治療を助けます。2017年12月からは、月1回のサルコーマカンファレンスを開催しています。カンファレンスでは、難しい判断を要する患者さんの診断・治療を、診療科の枠を超えて議論できるようになりました。がん専門病院の特徴を生かした強力な治療スタッフで構成される、埼玉がんセンターの“サルコーマチーム”は、多くの患者様のお役に立てると考えておりますので、是非ともご相談ください。

8階東病棟 病棟紹介



8階東病棟 師長
森住 美幸

8階東病棟 師長 森住 美幸

8階東病棟は、呼吸器内科、脳神経外科、乳腺腫瘍内科の混合病棟です。呼吸器内科では、抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬や、放射線治療を行っています。また、新薬の開発治験を積極的に行っています。脳神経外科では、手術療法、抗がん剤、分子標的薬を使用した化学療法、放射線治療を行っており、放射線治療では正常組織に影響の少ない定位照射等を積極的に行っています。いずれの科でも、がんやがん治療によって経験する身体面・精神面のつらさに対する緩和治療を並行して、その人らしく生きられるよう支援しています。

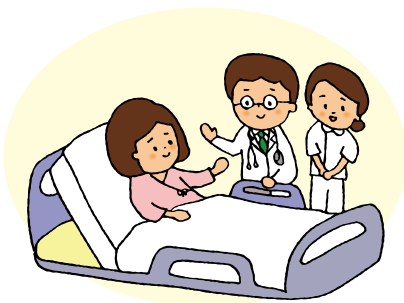
今回は、最近話題となっている免

疫チェックポイント阻害薬による治療についてご紹介したいと思います。私たちの体は、遺伝子異常によりがん化した細胞を、自己の免疫によって「異物」と判断して排除しています。しかし、免疫が弱まった状態になったり、がん細胞が免疫から逃れる術を身につけ免疫にブレーキをかけると、がん細胞を異物として排除しきれないことがあります。免疫チェックポイント阻害薬は、免疫にかけられたブレーキを解除して本来持っている免疫力を回復させる治療法

です。

免疫チェックポイント阻害薬は、細胞障害性抗がん剤と比べて重篤な副作用が少ないことが報告されていますが、従来とは異なった免疫関連の副作用が出現することがあり、注意が必要です。初回の治療は入院して受けることになるため、病棟看護師は治療中に出現する副作用の症状に速やかに対応しています。また、患者さんが退院後外来でも安全・確実に、つらさが少なく治療を受け続けられるように、外来や通院治療センターの看護師、薬剤師と連携しています。そして、ご自宅での観察点や体調が変化したときの対応について、患者さんやご家族にわかりやすくお伝えするようにしています。さらに、治療を続ける上での生活全般に関する心配、経済面の不安に対して、対処方法を見つけられるように、相談支援センターの看護師やソーシャルワーカーとともに必要な情報提供を行っています。

8階東病棟は、最新のがん治療薬を積極的に使用する病棟です。看護師は、患者さん、ご家族が不安が最小限な中で治療に臨めるように、治療に関連する知識の向上、副作用へのケアを充実できるように努めています。今後も、患者さんが自分らしく療養できるように、患者さん・ご家族によりそうかわりを続けさせていただきます。



患者セミナー 患者サロンの ご紹介

地域連携・相談支援センターでは、がんセンター患者さんとご家族対象セミナーや患者サロン「いこいの場」を開催しております。

セミナーは「放射線治療」「抗がん剤治療」「栄養と口腔ケア」など医療に関する事や、「ヨガ」「リフレクソロジー」「フラダ



ンス」「ウィック・カバーメイク」など楽しめる実践セミナーを開催しています。講師は、医師や専門・認定看護師、栄養士等のほか、インストラクターなどの外部講師もお願いしています。セミナーは、毎月1～2回60～90分程度です。参加された方からは「これから治療を行なうので参考になった」「日頃の体調を整えるヒントになりました」「体を動かすことって大切ですね」などの感想をいただいております。

患者サロン「いこいの場」は「病気の事は家族にも誰にも言えない」「同じ患者さんと話したい」という患者さんの声から、平成21年度から毎月1回開催し9年目になります。がんの種類は違っても、参加者同士で悩みや思いを共有され、治療の大変さや症状を抱えながら生活する中で「私はこんな方法でうまくいっているよ・・・」と情報交換をされております。「他の人の体験談を聞き参考になった」「自分の気持ちを打ち明けることができた。」「この会は心のケアです」という声を頂いております。お互いの頑張りを認め合い、アットホームな会です。皆様のご参加をお待ちしております。

(相談支援センター師長 岸塚 深雪)



参加したみなさんの提案で「がん友 つながり隊ノート」を情報コーナーに設けました。それぞれの思いを書きつづり多くの方とつながっています。

年間予定を院内掲示版やがん相談支援センター情報コーナー、がんセンターHPに掲載しております。



5月5日より みどりの図書室 へようこそ

2階図書館内にあります

開館時間 月～金 9:00～17:00

休館 国民の祝日・年末年始・
図書館長が定めた日

みどりの図書室の書籍の中で、貸出が多いのは「食事」関係です。

「普段の食事が大切なのはわかっているけれどなかなか作るのは・・・」「簡単にできる食事はないかしら」「手術後はどんな食事がいいの」などいろいろとお困りかと思います。

最近みどりの図書室で購入し、司書の間でも話題になった書籍があります。

『医療介護の現場で役立つ！パッキングクッキング』 佐藤真由美著
クインテッセンス出版 ISBN:9784781206325 2000円(税別)



鍋やフライパンはいりません。なんと高密度のポリエチレン製のビニール袋と電気ポットで調理します。①材料を下ごしらえし、②ビニール袋にいれ混ぜ、③電気ポットで沸かしたお湯の中に入れ(湯煎)、④一定の温度で時間がきたら出来上がり!!です。本当にできるの?と思うほどです。ここには23種類のレシピが載っています。肉じゃが・焼きそば・鶏肉いりひじきご飯・夏野菜カレーなどなど。どうですか?試してみたくありませんか?

ぜひみどりの図書室で実際レシピをご覧になってください。(紹介している私たちはまだ試していません・・・すみません)

みどりの図書室にはこの他にも食事の書籍がありますので、併せてご覧になってください。

(図書館司書:近藤・中沢)



みどりの図書室にある書籍のリストです。
図書館内・1階エレベータホールにあります。
どうぞご自由にお待ちください。

あなたにそっと
寄り添いたい

